

⑧〇 X 2025年度 小論文

問題冊子（1～2ページ）

注 意 事 項

- (1) 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見ないこと。
- (2) 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に申し出ること。
- (3) 解答は別に配付する解答用紙の該当欄に正しく記入すること。ただし、解答に関係のない語句・記号・落書き等は解答用紙に書かないこと。
- (4) 問題冊子の余白等は適宜使用してもよい。

以下の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

近年、我が国は経済や科学技術の飛躍的な発展に伴い、豊かで便利な生活がおくれるようになってきました。また、都市化や少子高齢化の進展にあわせて、社会環境や国民の生活様式は大きく変化し、価値観も多様化しています。このような社会変化のなか、近年では子どもの体力が長期的に低下傾向にあります。文部科学省が1964年から行っている「体力・運動能力調査」によると、1985年ごろを境に子どもの「走る力」「投げる力」「握力」などは、全年代において長期的に低下の一途をたどっており、親の世代にあたる30歳代以降の大人が子どもだった頃と比較して体力が著しく低下しているといわれています。スポーツ庁が小学5年生と中学2年生の男女を対象に例年実施している「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」では、2020年より流行した新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、2020年以降は急激に低下していますが、コロナ禍以前と比べても2022年度の「体力合計点」は男女ともに2019年度を下回っており、8種目の体力・運動能力のうち長座体前屈を除く全ての種目において低下傾向を示しています。学校での活動が制限されて体育の授業以外での体力向上の取り組みが減少したこと、また朝食欠食や睡眠不足、スクリーンタイム（スマートフォンの視聴やゲームをする時間）の増加に伴って外で体を動かす時間が減少していること、肥満傾向児の増加などが、その要因として指摘されています。また、学校の朝礼中に倒れる子ども、机に突っ伏すなど教室できちんと席に座ることができない子ども、常に疲労感を訴える子どもなど、必ずしも数値には表れない以前と異なる子どもが数多く見られるようになってきています。現在、生活全体が便利になるとともに、日常生活をおくるうえで必要とされる様々な労力が軽減されるようになってきており、ただ生活するためだけであれば、必ずしも高い体力水準や多くの運動量を必要としない世の中になってきています。現代社会におけるスクリーンタイムの増加やコロナ禍の影響により、社会全体として運動をしないまたは運動の時間が減少したままの生活習慣が定着してしまう可能性があり、今後も子どもの運動不足や低体力は深刻化することが予想されます。子どもの体力は発育発達・成長を支え、個人が生涯にわたって充実した生活を送り、明るく活力のある社会を維持形成していく基礎的能力です。しかし、現実には子どもの体力は低下傾向を続けており、子ども達の健康への悪影響、活

気・活力の低下などが今後の社会問題に繋がる懸念されます。体力は人間の発達・成長を支え、創造的な活動をするために重要な要因であることから、将来を担う子ども達の体力を維持・向上させていくことは、我が国の将来の発展のためにも喫緊の課題であると考えられます。従って、日頃から学校や家庭で運動やスポーツをすることの大切さを伝え、運動習慣の定着を図るためにも、楽しみながら運動ができるような工夫をすることが必要であると考えられます。

(出典：池田正春ほか、人生100年時代のヘルスプロモーションのすすめ
梓書院、2024年5月)

問 本文を参考にしながら子どもの体力低下の要因を2つあげ、それぞれの要因別に考えられる対策について具体的に800字程度で述べよ。